

幼小中つながる通信 vol.74

発行：令和 2 年 6 月 23 日 袋井市教育委員会

教員の交流が小中をつなげる

本市では、小学校と中学校の教員の人事交流を積極的に行っています。小学校と中学校の両方を経験することで、教え方や指導の違いに気づくとともに、9 年間で子どもを育てるという大切な視点を理解し、広い視野で目の前の課題に対応することができる教員の育成を目指しています。

袋井北小学校の杉浦有史先生は、3 月までの 3 年間、周南中学校で勤務しました。杉浦先生にインタビューし、3 年間で振り返って感じたことや考えたことを語っていただきました。



算数の授業をする杉浦先生

教員の小中交流

15 歳の出口を考える！

中学校の教員は常に **15 歳の出口を考えています**。どんな姿になっていけばいいのか、どんな力が身に付いていけばいいのか。1 年を節目として考えていた小学校の教員時代との違いを感じました。

現在は、6 年生を教えています。1 年後ではなく 4 年後を考えて接している自分にふと気づき、視野が広がったことを実感しました。

人間性がすべて！

中学校は、教科担任が授業を行うため、自分の学級の生徒と過ごす時間が限られています。

1 時間 1 時間がすごく貴重なので、常に笑顔を保つようにしていました。

また、多くの生徒との会話を心掛けていました。小学生と違い、中学生はこちらから話しかけられない、会話をしないまま一日が過ぎていくことがあります。**一人の人間として尊重している気持ち**を伝えたいと思っていました。小学校でも同じですが、**教師は人間性がすべて**だと改めて感じました。

子どもの主体性を伸ばす！

中学校では、生徒自身が中心となって進めていく学校行事や取組が数多くあります。小学校の教員時代は、自分が下準備をし、その通りに子どもが取り組んでいることに満足していましたが、子どもたちを信じて任せるべきだと感じています。**幼小中の 12 年間を通して子どもの主体性を伸ばし、子どもたちが自信を持って学校生活を送ることができるようにしたい**と思います。

百聞は一見に如かず！

中学校の教員を経験して本当に良かったと感じています。中学校の授業や部活などいろいろ話を聞いていましたが、実際に経験したことで分かること、初めて知ることがたくさんありました。

経験を通して理解したことを周りの教員に伝えていますが、「百聞は一見に如かず」です。もっと多くの人に、中学校の教員を経験してもらいたいです。

